

茅野市立永明小学校3年3部

すごいぞカイコ!!

茅野市立永明小学校3年生は、地域に伝わる養蚕の文化に触れながら、実際にカイコを育て、その一生を観察する活動に取り組みました。「お蚕さま」として大切にされてきた背景や命の大切さについて学びながら、カイコとともに過ごした時間が深い学びにつながっています。

カイコの飼育と観察

児童たちは、6月に岡谷蚕糸博物館からもらった小さな毛蚕を一頭ずつ大切に育て始めました。桑の葉を1日3回与え、脱皮の観察を繰り返す中で、成長に合わせた世話の難しさや命の重みを実感しました。5歳になると桑の葉の消費量が急増し、地域の協力も得ながら大量の葉を集めて給餌しました。

繭作りと命の循環への気づき

カイコが繭を作る様子を間近で観察した後、完成した繭を用いて人形やキーホルダーを制作。一部の繭は糸取り体験に使われ、長さ1200mにも及ぶ絹糸を実際に巻き取る過程を経験しました。また、カイコの糞や蛹も無駄にされず、肥料や食品、薬、化粧品などに活用されていることも学び、命の循環について深く考えるきっかけとなりました。

命と暮らしをつなぐ学び

カイコを「家畜」ではなく「お蚕さま」として敬う風習や、蚕靈神社への信仰などを学んだ児童たちは、「いただきます」の意味や命をいただく感謝の気持ちについて理解を深めました。生き物を飼育する過程で、命に対する畏敬の念が自然と育まれました。